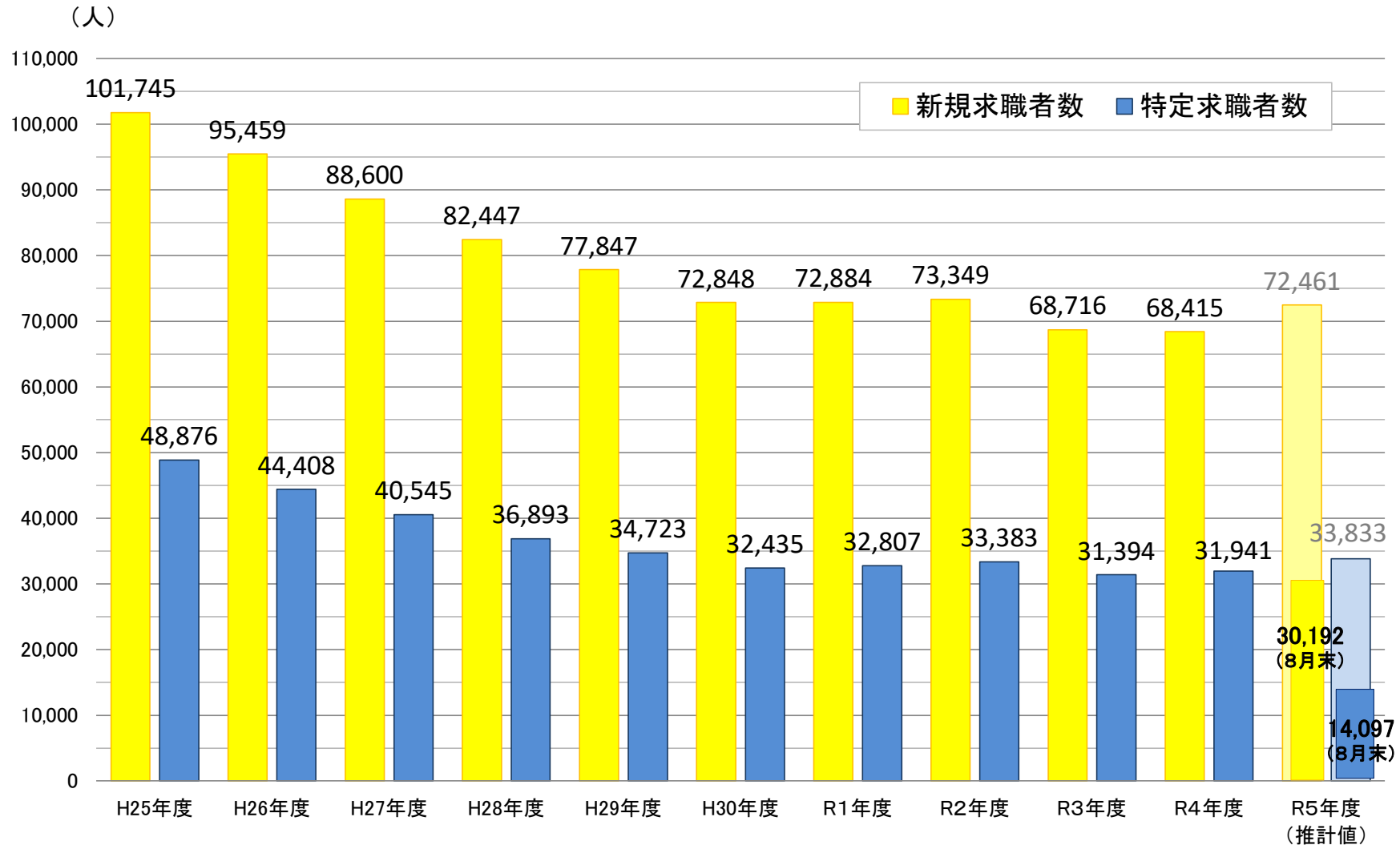


# 新規求職者・特定求職者数の推移(岐阜県)

資料1-1

○新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、令和5年度の新規求職者数及び特定求職者数は、共に増加傾向に転じる見込みです。



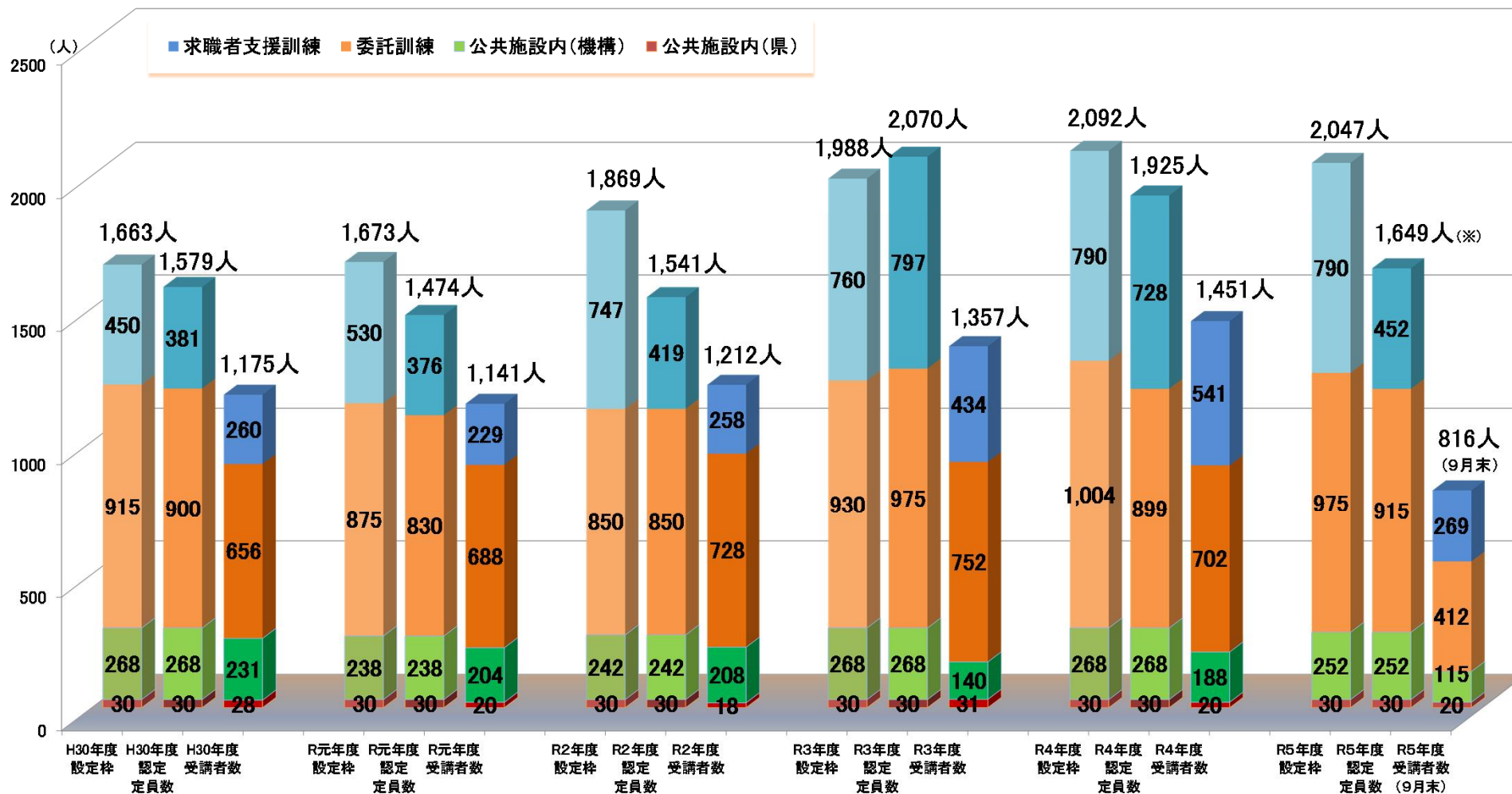
※令和5年度の新規求職者数と特定求職者数は令和5年8月末までの5か月間の数値に5/12を乗じた推計値。  
※特定求職者数は、新規求職者から雇用保険受給者および在職者を除いて算出。



# 離職者向け訓練受講者推移グラフ(岐阜県)

資料1-2

○ 令和4年度については、令和3年度と比べ認定定員数が減少したにもかかわらず、受講者数は増加しました。  
 なお、令和5年度は、認定枠が若干縮小されたものの、年度末には、前年と同程度の設定定員数・受講者数となる見込みです。



※令和5年度認定定員数は、求職者支援訓練のみ第3四半期分(10月～11月特例訓練含む)までの数。



離職者向け

## 公共職業訓練（施設内訓練）

- (1)対象：ハローワークの求職者 主に雇用保険受給者(無料)
- (2)給付金：雇用保険法に基づく各種手当
- (3)実施機関
  - 国(ポリテクセンター岐阜 [土岐市])  
主にものづくり分野の高度な訓練を実施(CAD/CAM技術科、電気設備技術科等)
  - 岐阜県(国際たくみアカデミー [美濃加茂市])  
地域の実情に応じた多様な訓練を実施(設備システム科、住宅建築科)

## 公共職業訓練（委託訓練）

- (1)対象：ハローワークの求職者 主に雇用保険受給者(無料)
- (2)給付金：雇用保険法に基づく各種手当
- (3)実施施設
  - 民間教育訓練機関等(岐阜県からの委託訓練)  
事務系、介護系、情報系等モデルカリキュラムなどによる訓練を実施

## 求職者支援訓練

- (1)対象：ハローワークの求職者 主に特定求職者(雇用保険を受給できない方) (無料)
- (2)訓練期間：2週間～6か月
- (3)給付金：職業訓練受講給付金(月10万円+交通費・寄宿手当(ともに所定の額))の支給  
※本人収入が月12万円以下等、一定の要件を満たす場合
- (4)実施機関
  - 民間教育訓練機関等(訓練コースごとに厚生労働大臣が認定)  
【運営費】訓練実施機関に対する奨励金
    - <実践コース>  
就職希望職種が定まっている者に対し、基礎的な職業スキルに加えて、就職希望職種における職務遂行のための実践的な技能等を付与する。
    - <基礎コース>  
社会人経験の少ない者や短期間で就職を目指す者に対し、社会人としての基礎的な能力を習得するための講習や短期間で習得できる技能及びそれに関する知識を付与する。



在職者向け

## 公共職業訓練（在職者訓練）

- (1)対象：在職労働者(有料)
- (2)訓練期間：概ね2日～5日
- (3)実施機関
  - 国(ポリテクセンター岐阜・東海職業能力開発大学校 [大野町])
  - 岐阜県(国際たくみアカデミー・木工芸術スクール [高山市])

学卒者向け

## 公共職業訓練（学卒者訓練）

- (1)対象：高等学校卒業者等(有料)
- (2)訓練期間：1年又は2年
- (3)実施機関
  - 国(東海職業能力開発大学校)
  - 岐阜県(国際たくみアカデミー・木工芸術スクール)



障害者向け

## 公共職業訓練（障害者訓練）

- (1)対象：ハローワークの求職障害者(無料)
- (2)訓練期間：概ね1か月～1年
- (3)実施施設
  - 岐阜県(障がい者職業能力開発校 [岐阜市])  
障害者の能力に適応した職業訓練を実施(施設内訓練)  
(基礎実務科、OAビジネス科、Webデザイン科)
  - 民間教育訓練機関等(岐阜県からの委託訓練)
    - <知識・技能習得訓練コース>
    - <実践能力習得訓練コース>
    - <特別支援学校早期訓練コース>



# 離職者向け公共職業訓練(施設内訓練)

【令和4年度】

- 県では、国際たくみアカデミー職業能力開発校の短期課程において、基礎的な専門知識と実践的な技能を併せ持ち、現場の即戦力となる人材を養成しています。

施設名	訓練科	計画定員	開講定員	受講者数	定員充足率	期間
国際たくみアカデミー 職業能力開発校	設備システム科	10	10	10	100.0%	1年
	住宅建築科	20	20	10	50.0%	1年
	合計	30	30	20	66.7%	

- 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構岐阜支部（以下「機構岐阜支部」という。）では、地域の訓練ニーズを的確に把握しながら訓練内容の充実を図っています。

施設名	訓練科	計画定員	開講定員	受講者数	定員充足率	期間
岐阜職業能力 開発促進センター (ポリテクセンター岐阜)	機械加工技術科	26	26	5	19.2%	6か月
	CAD/CAM技術科	80	80	40	50.0%	
	金属加工科	26	26	11	42.3%	
	電気設備技術科	32	32	24	75.0%	
	電気設備技術科(短期デュアル)	24	24	25	104.2%	
	住環境計画科	40	40	29	72.5%	1か月
	機械加工技術科(橋渡し)	8	8	3	37.5%	
	電気設備技術科(短期デュアル)(橋渡し)	8	8	14	175.0%	
	CAD/CAM技術科(橋渡し)	8	8	18	225.0%	
	金属加工科(橋渡し)	8	8	5	62.5%	
	住環境計画科(橋渡し)	8	8	14	175.0%	
	合計		268	268	188	70.1%

# 離職者向け公共職業訓練(委託訓練)

【令和4年度】

○ 県では、建設、介護、IT等人材不足が顕著な分野において産業界のニーズ等を踏まえ、民間教育機関に委託して職業訓練を実施しています。

訓練科(訓練職種)	設定定員数		開講実績				
	コース数	定員	コース数	定員数	受講者数	定員充足率	
情報ビジネス(情報)	13	215	13	215	193	89.8%	
就職氷河期世代(情報)	1	20	1	20	12	60.0%	
総務・経理事務(事務)	7	140	7	140	130	92.9%	
医療事務(事務)	5	100	5	100	80	80.0%	
不動産ビジネス(サービス)	1	15	1	15	15	100.0%	
CAD(製造)	3	45	3	45	30	66.7%	
建設機械運転(建設)	2	30	2	30	20	66.7%	
介護員養成(介護)	3	45	3	45	30	66.7%	
モノづくり技能(製造)	1	15	0	0	0	-	※応募者僅少のため不開講
産業人材育成(CAD)	1	15	1	15	8	53.3%	
Webプログラミング(情報)	4	65	4	65	65	100.0%	
新情報産業(情報)	3	60	3	60	53	88.3%	
IT活用(情報)	2	40	2	40	21	52.5%	
定住外国人(介護)	3	45	2	30	11	36.7%	※応募者僅少のため1コース不開講
介護福祉士養成(介護・2年)	2	23	2	23	14	60.9%	
保育士養成(サービス・2年)	3	26	3	26	20	76.9%	
合計	54	899	52	869	702	78.1%	

# 在職者向け公共職業訓練

【令和4年度】

○ 県では、国際たくみアカデミー及び木工芸術スクールにおいて、地場産業や地域企業等の人材ニーズを踏まえたコースを設定し、在職者に対する職業訓練を実施しています。

施設名	計法定員	開講定員	受講者数	定員充足率	訓練科
国際たくみアカデミー	431	400	184	46.0 %	
職業能力開発校	40	48	48	100.0 %	配管科、電気工事科
職業能力開発短期大学校	391	352	136	38.6 %	機械加工科、生産管理科他
木工芸術スクール	100	100	65	65.0 %	木工科
合計	531	500	249	49.8 %	

○ 機構岐阜支部では、職務の高度化・多様化に対応した職業能力開発を推進するため、能力開発セミナー（ものづくり分野）及び事業主が自ら実施する教育訓練に対する指導員の派遣・施設設備の開放等を実施することにより、より高度で多様な人材育成の機会を提供しています。

施設名	計法定員	開講定員	受講者数	定員充足率	訓練科
岐阜職業能力開発促進センター (ポリテクセンター岐阜)	900	625	341	54.6 %	設計／開発、加工／組立、工事／施工、検査、保全／管理、教育／安全
東海職業能力開発大学校	1,310	950	672	70.7 %	設計／開発、加工／組立、工事／施工、検査、保全／管理、教育／安全
合計	2,210	1,575	1,013	64.3 %	



# 学卒者向け公共職業訓練

【令和4年度】

○ 県では、国際たくみアカデミー及び木工芸術スクールにおいて、基礎的な専門知識と実践的な技能を併せ持ち、現場の即戦力となる人材やものづくりを中心とした現場のリーダーとなる人材を養成しています。

施設名	訓練科名	定員	入学者数	定員充足率	期間	
国際たくみ アカデミー	職業能力開発校	自動車エンジニア科	20	18	90%	2年
	職業能力開発 短期大学校	生産技術科	20	18	90%	2年
		建築科	20	14	70%	2年
木工芸術スクール	木工科	30	30	100%	1年	
合計		90	80	88.9%		

○ 東海職業能力開発大学校では、専門課程では即戦力となる高度な人材を、応用課程では「ものづくり」における高度な技能・技術等を習得し、将来の生産技術・生産管理部門のリーダーとなる人材を養成しています。

施設名	訓練科名	定員	入学者数	定員充足率	期間	
東海職業能力 開発大学校	専門課程	生産技術科	20	17	85.0%	2年
		電気エネルギー制御科	20	20	100.0%	
		電子情報技術科	30	29	96.6%	
	応用課程	生産機械システム技術科	20	13	65.0%	
		生産電気システム技術科	20	19	95.0%	
		生産電子情報システム技術科	25	25	100.0%	
合計		135	123	91.1%		

# 障がい者向け公共職業訓練

【令和4年度】

○ 県では、障がい者職業能力開発校の短期課程において、一般就労を目的とし、必要な技能習得に加え社会人として自立した職業生活を送るための能力を習得し、即戦力となる人材を育成しています。

施設名	訓練科名	定員	入学者数	定員充足率	期間
岐阜県立障がい者職業能力開発校	基礎実務科	10	10	100%	1年
	OAビジネス科	10	10	100%	1年
	Webデザイン科	10	10	100%	1年
合計		30	30	100%	

○ 企業・特定非営利活動法人・民間教育訓練機関等の多様な委託先を活用して、障がい者の特性やニーズを踏まえた公共職業訓練（障がい者委託訓練）を実施し、就職に必要な知識・技能の習得を図ることにより、障がい者の就職を支援しています。

訓練コース	訓練期間	計画定員数	開講定員数	受講者数	定員充足率
知識・技能習得訓練コース	-	30	19	17	89.5%
IT技能習得訓練科	2.5か月	25	15	14	93.3%
	1.5か月	5	4	3	75.0%
実践能力習得訓練コース	3か月以内	18	3	3	100%
特別支援学校早期訓練コース	1か月	3	-	-	-
合計		51	22	20	90.9%

# 求職者支援訓練

【令和4年度】

○ 非正規雇用労働者やフリーランスなどの、雇用保険が受給できない者に対する雇用のセーフティーネットとして、求職者支援制度に基づく職業訓練を実施しています。令和4年度の訓練計画では、470人に訓練機会を提供するため、訓練認定規模の上限を790人としております。

コース区分		年間 上限枠	認定 コース数	認定 定員数	開講 コース数	開講 定員数	受講者数	定員 充足率
基礎コース		315	6	85	6	85	64	75.3%
実践コース		475	42	643	39	599	477	74.2%
	介護系	100	3	43	2	29	12	41.4%
	医療事務系	50	4	47	3	32	26	81.3%
	デジタル系	100	7	95	7	95	89	93.7%
	その他の成長分野	225	28	458	27	443	350	76.4%
合計		790	48	728	45	684	541	74.3%

# 生産性向上支援訓練

【令和4年度】

○ 事業主及び事業主団体の生産性向上に役立つ知識・スキルを習得するための短時間の職業訓練で、産業分野・職種を問わず幅広い在職者の方々を対象に様々な訓練カリキュラムを用意し、民間機関等と連携して実施しています。

施設名	事業名	計画数	コース数	受講者数	訓練分野
(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構 岐阜支部 岐阜職業能力開発促進センター	生産性向上支援訓練	820	134	1,450	
	DX対応コース	120	11	79	DX人材の育成を支援するコース
	ミドルシニアコース	60	12	63	中高年齢層の生涯キャリア形成を支援するコース
	合計	820	134	1,450	

# 令和4年度におけるハロートレーニングの実績(岐阜県)

【令和4年度】

			計法定員数 (人)	開講定員数 (人)	受講開始者数 (人)	就職率 (%)	
公共 職業訓練	離職者 訓練	合計	1,302	1,167	910	-	
		施設内 訓練	小計	298	298	208	-
			県	30	30	20	100
			機構	268	268	188	86.8
	委託訓練		1,004	869	702	77.9 ※1	
	在職者訓練(県) (機構)		531 2,210	500 1,575	249 1,013	- -	
	学卒者訓練	合計	225	225	203	-	
		県	90	90	80	100 ※1	
		機構	135	135	123	98.5 ※1	
	障がい者 訓練	離職者 訓練	合計	81	52	50	-
施設内訓練			30	30	30	92.6 ※1	
委託訓練			51	22	20	40.0 ※1	
求職者 支援訓練	基礎コース	315 ※2	85	64	47.8 ※3		
	実践コース	475 ※2	599	477	51.9 ※3		
公共職業訓練(委託訓練)と求職者支援訓練の合計			1,794	1,553	1,243	-	

※1 定例業務統計報告調べ。令和4年度中に終了した訓練コースの訓練終了後3か月までの就職状況（1か月未満の訓練コース及び橋渡し訓練は除く）。

※2 求職者支援訓練の計法定員数は、認定上限値。

※3 令和4年度中に終了した訓練コースの訓練終了後3か月までの雇用保険適用就職率。



# 公的職業訓練効果検証 報告書

製造業「ものづくり」における「CADコース」～ヒアリングによる効果検証～

報告者 岐阜県地域職業能力開発促進協議会ワーキンググループ



## 報告書の構成

- (1) ものづくり分野職業訓練の実施状況と課題
- (2) ワーキンググループ活動報告
- (3) ヒアリング実施結果の概要
  - ①訓練修了者
  - ②採用した企業
  - ③訓練実施機関
  - ④令和5年度CADコース概要
- (4) 改善提案
- (5) まとめ



## (1) ものづくり分野 職業訓練の実施状況と課題

- 令和3年度コース設定状況 (設定コース数26、定員数263)
- 令和3年度受講者状況 (受講者数144、充足率54.8%)
- 令和3年度開講コースの就職率 (求訓70.0%、委託79.4%、施設内89.7%)

- 最も求職者の多い岐阜市内に公共職業訓練（施設内訓練）の施設がない
- ほとんどのコースにおいて、就職率は高いが、定員充足率は低い
- 求職者ニーズを加えたカリキュラム改善と受講メリットが伝わる広報が課題

検証対象 令和3年度開講コース

## (2) ワーキンググループ活動報告

○令和5年4月19日第1回ワーキンググループ会議開催（局、県、機構計9名）

主な議題：協議会報告までの作業プロセスと分業及び連携について

○令和5年5月24日効果検証編集作業部会開催（編集員、5名）

主な作業：ヒアリング実施に先立つ挨拶状と対象別ヒアリングシートの作成

○令和5年6月ヒアリング実施（県、ポリテクセンター、機構）（フィールドワーク）

○令和5年7月ヒアリング結果のグループ内共有と不足情報の確認（メール）

○令和5年8月ヒアリング結果を整理、報告フォーム（案）の共有（メール）

○令和5年9月地域職業能力開発促進協議会への報告フォームの協議（メール）

○令和5年10月3日第2回ワーキンググループ会議開催（局、県、機構計9名）

主な議題：ヒアリング結果についての意見交換とカリキュラム改善提案の策定

：協議会報告書の作成協議

# (3) ヒアリング実施結果概要

## ① 【訓練修了者】 主な意見

受講コース	CADオペレータ科（求職者支援訓練）	3次元CAD使いこなし科（離職者等委託訓練）	CAD /CAM技術科（ポリテク施設内訓練）
【就職先】 【経験等】	【コンピュータ付帯設備設計施工業】 【製造業20年の経験有も、CAD実務は未経験】	【設計技術者派遣業の派遣要員（正社員）】 【CAD未経験】 【20代】	【自動車生産ラインの治具設計企業の正社員】 【CAD未経験】 【30代】
就職後に役立ったもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Word、Excelを改めて学び直したことは有意だった。</li> <li>・ 作図、製図の基礎や機械設計の基礎を学んだことは仕事を進める上で役に立った。</li> <li>・ 一つのCADソフトの取扱い習熟度を上げるよりも、使い乍ら、基礎的（汎用的）知識を身につけることが大切になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仕事に関わるCADソフトウェアは訓練のそれとは違ったが、操作に慣れるのには十分役に立った。</li> <li>・ 就職に繋がった訓練内容としては、OJT座談会。そこで、自分に合う企業を探せたこと、入社前に業務を知ることができたことは役に立った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2DCAD、3DCAD</li> <li>・ 汎用機械作業</li> <li>・ NCプログラミング作業</li> </ul> <p>※6か月の訓練で学んだ内容は直接的・間接的に、ほとんど全てが実務で活かされている。</p>
就職後にあまり活用されなかったもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訓練ではAutoCadを使ったが就職先はCADバックを使用しておりCADバックは自習の必要が生じたが、似ている所も多く応用は効いた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入社後に、2次元CADを使用する制御設計を担当することになったので、学んだソフトウェア（3次元CAD）については、現在使用していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ パソコン（office）の基本操作</li> </ul>
訓練後に感じたスキル・技能の不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空間認識能力（3次元形状の認識能力、2次元の図面へ落とし込む作図能力）の更なる向上。</li> <li>・ 3DCADの操作理論が学べると尚よい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訓練では予めどのような物を作るかが描かれた図面を渡されて、それを3次元CADで起こすという学び方であったが、実際の仕事の現場では自分で考えて図面を起すことが必要になる機会が多くあった。物を作る上で必要な図面を描く為の基礎知識や現場で使う材料や形状の理（ことわり）が学べると良かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 汎用工作機械を用いた加工作業全般はもう少し詳しく学びたかった。</li> </ul>
訓練カリキュラムへの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CADの技能習得には3ヶ月は物足りないが、4か月以上の訓練は家庭事情から受けられない人もいる。製造業への就職を目的とした3か月程度の訓練があることは望ましいことだと思う。</li> <li>・ 空間認識能力の向上につながるようなカリキュラムを組入れてもらえれば尚よい。</li> <li>・ CADは設計を行うための道具なので、道具を使いこなすための知識（公差の知識のような実践的な知識）が身につけば自ら考える力となり、CADを使う上でも役に立つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゼロからCADの操作を学べるということであったが、イメージ通りだった。まったくCADを触ったことがなくてもできる訓練だと思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在会社で使用しているCADソフトについては2DがAutoCAD、3Dがインベーター。訓練で使ったのは、2Dが同じAutoCAD、3Dはソリッドワークスであったが、使い心地は近いため十分に役に立っている。</li> <li>・ 今の実務は設計作業であるが、NCプログラムで加工した経験（加工の手順を理解できる）が設計にも役立っている。</li> </ul>
後に続く、受講者に伝えたいこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私が経験したクラスでは、皆さん目的があり、向上心があり、雰囲気も良好で学びやすさがあった。</li> <li>・ パソコンの技能習得を生かして他業種に就職された方もあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CADは未経験から独学で学ぶことは難しい技能だと思う。物を作る仕事をしたいという気持ちがあれば、CAD技能を学べる環境として職業訓練の受講は良い選択だと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他業種から製造業への転職である場合、CADの知識・技能のほか、機械加工や金属加工も併せて学ぶことを勧めたい。</li> </ul>

## ②【採用した企業】 主な意見

訓練コース	CADオペレータ科（求職者支援訓練） 【コンピュータ付帯設備設計施工】	3次元CAD使いこなし科（離職者等委託訓練） 【設計技術者派遣】	CAD /CAM技術科（ポリテク施設内訓練） 【自動車生産ラインの治具設計】
採用後役に立ったスキル、技能優位点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練で習得した2次元CADの基本的な操作技能</li> <li>・図面作成に必要な基本知識</li> <li>・3次元CADの形状作成の元となる2次元スケッチの基本的な操作技能（入社後の教育が不要）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このコースの修了者は製図、CADの初期研修が済んでいるので、スムーズな実務移行能力が備わっている。</li> <li>・修了者はビジネススキル（パソコン、ビジネスマナー）が備わっているため、職場への導入が効率的。</li> <li>・採用者の9割近くが職業訓練で職場実習に来た方。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CAD操作。特に教えなくてもできる。</li> <li>・「そんなところまでやっているんだ。」と思う位、習得されているので、次の採用も期待している。</li> </ul>
更なる習得が望ましいスキル、技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空間認識能力</li> <li>・3次元形状認識能力</li> <li>・現物スケッチ技能の向上</li> <li>・基本リンク</li> <li>・動力系機械要素の基礎知識</li> <li>・部品図等に必要の公差の考え方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今のままでも十分にありがたいが、欲を言えば自社で実際に使用しているCADのソフトウェアはソリッドワークスで、訓練で用いているフュージョン360より、汎用性が高い。訓練校もソリッドワークスになれば尚良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部品図の作成時に加工のイメージを持っていけば解りやすい図面の向きや寸法の入れ方などが身に付く。</li> <li>→ 設計に生きる機械加工の経験。</li> </ul>
訓練修了の採用者に期待されること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未受講者と比較して、いち早く、設計、製図トレースの能力が即戦力レベルに達すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスマナーが身に付いていること</li> <li>・当該職種の訓練に一定期間耐えてきた経験からか、他の応募者と比べて高い定着性が期待できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CAD操作能力、機械加工に関する経験、知識が他の者より先んじており、採用における有意差がある。</li> <li>・CADの経験知識が0の人と比べると、入社3か月位は先に行っている感じ。</li> </ul>
実施されている訓練内容に期待する改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組立図の作図技能と組立図から部品図へのバラシなど実務系の講習を加えてもらいたい。</li> <li>・工場設備のシステムインテグレーターなので、工場設備系のスキル習得があると良いと思う。</li> <li>・入学時にパソコン技能や経験有無を確認し、既取得者には、設計や製図に直接関連するカリキュラムを選択できるようにするほうが良いと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・採用側として不要と思われるカリキュラムは無い。</li> <li>・職業訓練校への要望ではないが、岐阜駅などのアクセスの良い場所に、理工系大学や理工系学部を新設してもらえると、企業側としてはありがたい。情報・デザイン系であれば設備やスペースなどもそれほど要しない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しっかりやってもらっている。今のままで良い。</li> <li>・設計の図面には溶接構造部品なども出てくることがあるので、さわりだけでも溶接をやっていると良い。</li> </ul>



### ③【訓練実施機関】 主な意見

訓練コース	CADオペレータ科（求職者支援訓練）	3次元CAD使いこなし科（離職者等委託訓練）	CAD /CAM技術科（ポリテク施設内訓練）
工夫している点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CADを理解するスピードに有益な差が出て来るので、パソコン基礎スキルから訓練をするよう設定。</li> <li>・空間認識能力の向上に繋げるため、先ず、手描きの設計をカリキュラムに入れている。</li> <li>・企業情報も豊富で就職に直結できるコースであること。</li> <li>・CADの面白さや有意性を分ってもらうための広報動画の作成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3次元CAD（フュージョン360）を集中的に学ぶ。</li> <li>・職場実習付きの訓練であることが特徴。職場実習先と訓練生の双方が参加する2者面談「OJT座談会」を行って、実際の就職のマッチング成果を高めている。</li> <li>・ハローワークを通じた見学会とCAD体験会への勧誘。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎から応用まで段階的に習得できるよう訓練。</li> <li>・独自テキストを作成し、必要な内容に絞って、間に適宜課題を入れつつ、効果的・効率的に訓練を進めている。</li> <li>・毎週木曜日を「ポリテク施設見学会の日」と定めて勧誘。</li> <li>・名称変更で製造業界への「縁遠さ」を軽減する取り組み。</li> <li>・パソコンも併せて学びたい人向けに橋渡し訓練にも注力。</li> </ul>
キャリアの状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生には未経験者が多くCADを最後まで学びきる為、受講に対する安心感を持ってもらえるようアプローチ。</li> <li>・CADは「ものづくりリテラシー」であるとの考えから、キャリア形成に役立つ、一生もののスキルであることを教示している。（岐阜の就職環境は全国トップレベル）</li> <li>・パソコンも学ぶことで他の業界への就職も選択可能。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練生の希望に合う就職ができるよう、訓練生に寄り添ったキャリアコンを心掛けている。</li> <li>・中には、訓練内容とは関係ない職種が適していると思しき人もあるが、本人が希望する職種や就職先を中心に相談を受けている。</li> <li>・中小一般職より技術者派遣の専門職が選択され易い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入社して直ぐに指導員との2者面談で就職に関する希望を確認、2か月目を目安に指導員と就職支援アドバイザーとの3者面談でより希望を明確化、3か月目には2者面談で本格的な就職活動前に方向性を確認している。</li> <li>・企業からの採用ニーズは高く、訓練期間中の内定も多いが訓練修了を基本としてキャリアコンを実施している。</li> </ul>
国への要望望む改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練費用（奨励金）について単価の見直しを希望。</li> <li>・経費や奨励金の評価に出席率や就職率が用いられているが、それらは当人のモラルや就職先の雇用保険手続きの公正さ等にも大きな影響を受ける。奨励金も、認定された計画を確実に遂行したことへの対価としての基礎額など在于方の見直しを行うべき。</li> <li>・景況感や特定求職者の減少に拘わらず制度趣旨に共感し継続的に訓練実施している施設を表彰してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CADにはいくつもの種類やソフトウェアがあり、個々のライセンス料も高額であるため、2次元CADを割愛せざるを得ず3次元CADに特化している。また、3次元CADでも汎用性の高いソリッドワークスを導入したいが高価なため諦めている。委託料単価を上げる等の再考をお願いしたい。</li> <li>・個人情報の取扱いなど事務負担も増大しており、施設側の業務量の軽減や経費負担を考慮してほしい。</li> </ul>	・不問
訓練カリキュラム改良視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく学べるCADを目標に訓練を行った結果、CADにこれからの職業人生で意欲的に携わって行きたいという人を輩出できるようになっている。CADの面白さが伝わるようなカリキュラム改善を目指していきたい。</li> <li>・使うソフトや専門性に拘わらず、CADを学べば製造業への就職は良好。課題は、事務やサービス業系からの求職者にも、CADコースをキャリアの間口を広げる有効な訓練として認知してもらうこと。製造業の現場でも使われ、求職者からもニーズの高い表計算ソフトやIT技能と合わせ、ハイブリッド・カリキュラムを提案させてもらえると良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CADなど製造業のイメージが強い訓練は受講希望者が少ない。一方、WebやパソコンやDXの訓練は人気が高い。抱き合わせができれば受講希望者は増やせるだろうが、イニシャル・コストと運営コストが高むので悩ましい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練期間中に内定が出ても、修了まで受け切ってから入社してほしいという声があるほど、訓練カリキュラムについては採用者ニーズに合っていると思う。</li> <li>・応募者の減少については、ポリテク見学会の励行など広報活動の強化で対応中。</li> <li>・パソコンも学びたい求職者も多いことから、訓練カリキュラムに100時間程度のパソコンを学ぶ時間を編入済み。</li> </ul>

#### ④【令和5年度】ものづくり分野CADコース概要

コース名 開講月	求職者支援 令和4年度 令和5年度 認定なし	3次元CAD使いこなし科 (委託訓練 5月10月)	モノづくり技能科 (委託訓練11月)	機械CADオペレータ科 (委託訓練12月)	ものづくりデザイン科 (公共施設内訓練 5月、 8月、11月、2月)	ものづくりオペレーショ ン科 (公共施設内訓練 9 月、3月)
実施機関 訓練期間	(令和3年 度)3か月	民間の訓練実施機関 5か月	民間の訓練実施機関 5か月	民間の訓練実施機関 4か月	ポリテクセンター 6か月	ポリテクセンター 6か月
工夫している 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンの知識、技能から学び直すことでCAD未経験者にも訓練へ導入し易くしている。</li> <li>・就職の間口も広がる。</li> <li>・空間認識能力の向上に繋げるため、先ず手描きの設計をカリキュラムに入れている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2次元CADはなく3次元CADを集中的に学ぶ。</li> <li>・モノづくりにおけるDX(デジタルトランスフォーメーション)の意味するところ、取組事例、そして課題について習得。</li> <li>・職場実習付きの訓練であることが特徴。職場実習先と訓練生の双方が参加する2者面談「OJT座談会」を行って実際の就職のマッチング成果を高めている。</li> <li>・ハローワークを通じた見学会とCAD体験会への勧誘。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工作が好きな人向き。</li> <li>・モノづくり職人の基本、加工技能と組立技能を基礎から学ぶ。</li> <li>・2次元CADは無く3次元CADを学ぶ。</li> <li>・3Dプリンター実用講座36時間</li> <li>・職場実習付きの訓練であることが特徴。職場実習先と、訓練生の双方が参加する2者面談「OJT座談会」を行って実際の就職のマッチング成果を高めている。</li> <li>・ハローワークを通じた見学会とCAD体験会への勧誘。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理解するスピードに有為な差があるので、パソコン基礎スキルからCADの訓練をするよう設定。</li> <li>・空間認識能力の向上に繋げるため、先ず、手描きの設計をカリキュラムに入れている。</li> <li>・企業情報も豊富で就職に直結できるコースであること。</li> <li>・CADの面白さや有意性を分ってもらうための動画作成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CAD技能を習得し金型作成ができるよう基礎から応用まで段階的に訓練している。</li> <li>・2次元CADによる機械の図面作成と3次元CAD/CAMシステムによる金型モデリングと加工データ作成、さらには実際にCNC工作機械による加工の技能を習得する。</li> <li>・毎週木曜日を「ポリテク施設見学会の日」と定めて勧誘。</li> <li>・名称変更で製造業界への「縁遠さ」を軽減する取り組み。</li> <li>・パソコンも併せて学びたい人向けに橋渡し訓練にも注力。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旋盤など切削加工の基本とNC機械のプログラミング及び加工ができるよう訓練している。</li> <li>・設計図面の読み取りから部品作成、CAD操作、コンピュータ制御の機械を動かすためのプログラムを作れるよう、技術・知識を身に付ける。</li> <li>・毎週木曜日を「ポリテク施設見学会の日」と定めて勧誘。</li> <li>・名称変更で製造業界への「縁遠さ」を軽減する取り組み。</li> <li>・パソコンも併せて学びたい人向けに橋渡し訓練にも注力。</li> </ul>
訓練ソフト PC環境 ライセンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AutoCAD LT(2次元)</li> <li>・Office2016</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前はSolidWorks(3次元)を使用してきたが、現在はFusion 360(3次元)を使用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前はSolidWorks(3次元)を使用してきたが、現在はFusion 360(3次元)を使用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AutoCAD LT2022(2次元)</li> <li>・Fusion 360(3次元)</li> <li>・マイクロソフトOffice2019</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AutoCAD 2023(2次元)</li> <li>・SolidWorks(3次元)</li> <li>・他の科ではJw_cadも使用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AutoCAD 2023(2次元)</li> <li>・SolidWorks(3次元)</li> <li>・他の科ではJw_cadも使用</li> </ul>
令和5年度 年間設定定員 数	計画定員 (15人) 設定定員 (0人)	5月15人(受講者10人) 10月15人 合計30人	11月15人	12月15人	5月15人(受講者6人) 8月15人(受講者13人) 11月15人 2月15人 合計60人	9月15人(受講者9人) 3月15人 合計30人

## (4) 改善提案

### ○ヒアリング結果から見えてくるもの

- 学ぶ際のソフトの種類や普及度を問わず、CADコースはものづくり業界への転職をするのに有効で、採用者からも職場導入のスムーズさを高く評価されている。分かってくるとCADは面白い。
- 高校、大学とも理工系出身者は普通科や文系に比べて多くない中、岐阜県において中心産業である製造業への転職者を増やすには、未経験者や文系出身者のキャリアチェンジやリスキリングも必要になってくると思われるが、そのつなぎの場となる訓練実施施設において、求職者がCADコースやモノづくり分野への期待や好感を持てる訓練カリキュラムを提供できるようにしたい。求人難の製造業へ転職を促す訓練コースとして人気の訓練カリキュラムとの混成も考える必要がある。

### ○具体的な改善提案

- 訓練カリキュラム改善の方向性
  - ☆ CADの魅力（形を作る面白さ、表現する面白さ、時給の高さ等）そのものが増し、それが伝わるタイトルとカリキュラム。  
例：「手書き作図から始めるCADの魅力再発見科」
  - ☆ サービス、事務職種からの離・転職者が学び易いカリキュラムをCADのカリキュラムに織り込んだコース※1  
例：「作表（Excel）と作図（CAD） 身近に始めるモノづくり転職力養成科」  
例：「CADとWEBデザイン 2つのデザイン力使いこなし科」  
例：「CADとDX ものづくり活躍力養成科」

※1 CADは製造業の企業や職種において「ものづくりリテラシー」とも呼べるような基本的な職能であることに着眼し、CADの専門性を高めることで即戦力を養成する方向性ではなく、CADの技能を習得する機会に例示に挙げたような職務能力を併せて学ぶことで汎用就職力を高める方向性を提唱する。製造業の中にある様々な職種（営業、事務、広報、品質管理、ロジスティクス等）に活躍の場があることを見込む。

## (5) まとめ

- ▶ 「ものづくり分野」コースの受講者を増やすために、求職者等に対し「ものづくり」（今回の検証においては「CAD」）の魅力や面白さ、将来性、CADとは何かを伝え興味を持ってもらうため、訓練募集チラシの内容・表現の見直しを進めます。また、訓練説明会や見学会、体験会の開催について訓練実施施設に要望してまいります。更に、ハローワーク職員がCADについて知り、そのメリットを説明できるようハローワーク職員による見学を促進してまいります。
- ▶ CADについては「製造」分野ではあるものの、パソコンを使用した作業であることから、事務室での作業であることをアピールすることで、求職者のイメージの改善を促します。併せて、受講したいと思える訓練コースとするため、ワード、エクセル操作技能の習得やDX等求職者ニーズの高い内容を含んだものとするよう訓練実施施設に働きかけてまいります。開講目的に即し、事務職やサービス業の求職者からも職業訓練を通じた製造業界への就職者が増えるよう「認知」し易い職業訓練とするためには、今回のカリキュラム改善のほか、製造業就職の魅力を含めた広報の強化が必要になることを添えて、協議会へ報告します。



# ハロートレーニング（離職者向け）の令和4年度実績

資料3-1

## 1 離職者向けの公的職業訓練の分野別訓練規模

分野		総計		
		コース数	定員	受講者数
公共職業訓練（離職者向け） 十 求職者支援訓練（実践コース）	IT分野	1,583	25,024	18,773
	営業・販売・事務分野	2,851	46,133	34,187
	医療事務分野	578	9,220	6,624
	介護・医療・福祉分野	1,817	20,525	12,481
	農業分野	77	1,115	836
	旅行・観光分野	34	634	376
	デザイン分野	847	16,880	14,381
	製造分野	1,521	18,086	11,997
	建設関連分野	571	7,651	5,766
	理容・美容関連分野	301	4,079	3,222
その他分野	888	10,677	9,321	
（基礎者支援訓練）	基礎	592	9,117	6,230
合計		11,660	169,141	124,194
（参考） デジタル分野		1,997	35,336	28,037

### 用語の定義

※本資料における用語は、以下のとおり定義しています。

#### 「コース数」

公共職業訓練については、当該年度中に開講したコース及び当該年度以前から開始し当該年度に実施した訓練コースの数（当該年度以前に開講し、次年度に繰り越すコースを含む）。

求職者支援訓練については当該年度中に開講したコースの数。

#### 「定員」

当該年度中に開講した訓練コースの定員の数。

#### 「受講者数」

当該年度中に開講したコースに入校した者の数。

#### 「応募倍率」

当該訓練の定員を100とした時の、受講を申し込んだ者の数の倍率。

#### 「定員充足率」

当該訓練の定員に対する受講者数の割合。

#### 「就職率」

訓練を修了等した者のうち就職した者の割合。分母については受講者数から中途退校者数（中途退校就職者数を除く）等を差し引き、分子については中途退校就職者を加えている。

ただし、公共職業訓練については、令和4年度末までに終了したコース、求職者支援訓練については、令和4年12月末までに終了したコースについて集計。

#### 「デジタル分野」

IT分野（ITエンジニア養成科など。情報ビジネス科を除く。）、デザイン分野（WEBデザイン系のコースに限る）等。

※数値は速報値のため、今後変動の可能性がある。

## 2 離職者向けの公的職業訓練の制度別、分野別訓練の実施状況

※応募倍率、就職率については、高いものから上位3位を赤色セル、下位3分野を緑色セルに着色して表示している

分野		公共職業訓練(都道府県:委託訓練)						求職者支援訓練					
		コース数	定員	受講者数	応募倍率	定員充足率	就職率	コース数	定員	受講者数	応募倍率	定員充足率	就職率 (注)
公共職業訓練(離職者向け) + 求職者支援訓練(実践コース)	IT分野	1,273	19,624	14,653	104.9%	74.7%	70.8%	294	5,205	3,978	113.2%	76.4%	55.1%
	営業・販売・事務分野	1,862	30,156	22,855	100.8%	75.8%	73.2%	940	15,298	10,699	93.8%	69.9%	58.1%
	医療事務分野	433	6,839	4,968	93.1%	72.6%	79.1%	145	2,381	1,656	87.1%	69.6%	66.7%
	介護・医療・福祉分野	1,421	14,154	8,593	75.7%	60.7%	85.5%	332	5,291	3,137	71.5%	59.3%	68.1%
	農業分野	33	409	290	97.8%	70.9%	72.5%	7	107	65	72.0%	60.7%	59.3%
	旅行・観光分野	28	529	329	76.0%	62.2%	50.8%	2	25	12	60.0%	48.0%	46.7%
	デザイン分野	316	5,490	4,893	156.8%	89.1%	67.0%	524	11,280	9,395	145.3%	83.3%	52.6%
	製造分野	24	216	138	76.4%	63.9%	68.7%	9	133	105	96.2%	78.9%	66.0%
	建設関連分野	55	758	540	88.3%	71.2%	70.0%	70	995	749	110.4%	75.3%	66.7%
	理容・美容関連分野	61	256	215	147.7%	84.0%	79.3%	240	3,823	3,007	114.6%	78.7%	64.9%
その他分野	176	1,704	1,180	98.4%	69.2%	78.1%	101	1,718	1,255	127.3%	73.1%	53.8%	
求職者支援訓練 (基礎コース)	基礎	-	-	-	-	-	-	592	9,117	6,230	89.3%	68.3%	55.7%
合計		5,682	80,135	58,654	100.3%	73.2%	74.4%	3,256	55,373	40,288	105.7%	72.8%	
(参考) デジタル分野		709	10,916	8,749	130.5%	80.1%	67.1%	721	14,856	12,085	136.7%	81.3%	53.4%

※数値は速報値のため、今後変動の可能性がある。

(注) 求職者支援訓練の就職率は令和4年12月末までに終了したコースについて集計。

分野	公共職業訓練(都道府県:施設内訓練)						公共職業訓練(高齢・障害・求職者雇用支援機構)					
	コース数	定員	受講者数	応募倍率	定員充足率	就職率	コース数	定員	受講者数	応募倍率	定員充足率	就職率
IT分野	16	195	142	106.2%	72.8%	77.0%	0	0	0	-	-	-
営業・販売・事務分野	21	315	262	122.5%	83.2%	85.8%	28	364	371	150.5%	101.9%	88.6%
医療事務分野	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-
介護・医療・福祉分野	64	1,080	751	86.2%	69.5%	88.5%	0	0	0	-	-	-
農業分野	37	599	481	111.7%	80.3%	90.7%	0	0	0	-	-	-
旅行・観光分野	4	80	35	61.3%	43.8%	80.0%	0	0	0	-	-	-
デザイン分野	7	110	93	140.9%	84.5%	79.8%	0	0	0	-	-	-
製造分野	221	2,864	1,600	69.8%	55.9%	81.6%	1,267	14,873	10,154	82.3%	68.3%	87.9%
建設関連分野	118	1,791	1,123	82.9%	62.7%	83.1%	328	4,107	3,354	96.2%	81.7%	87.2%
理容・美容関連分野	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-
その他分野	127	2,075	1,292	86.2%	62.3%	79.8%	484	5,180	5,594	142.3%	108.0%	87.7%
合計	615	9,109	5,779	84.2%	63.4%	83.2%	2,107	24,524	19,473	98.3%	79.4%	87.7%
(参考) デジタル分野	9	95	79	125.3%	83.2%	73.3%	558	9,469	7,124	92.7%	75.2%	86.6%

※数値は速報値のため、今後変動の可能性がある。



## 令和5年度計画と同程度の規模で人材を育成

### 実施状況の分析

応募倍率が低く、就職率が高い分野  
（令和4年度実績に該当する訓練分野）  
「介護・医療・福祉分野」

【委託訓練】令和4年度は応募倍率が更に低下し75.7%。就職率はやや向上。

【求職者支援訓練】令和4年度は応募倍率が大幅に改善し71.5%。就職率はやや低下。

応募倍率が高く、就職率が低い分野  
（令和4年度実績に該当する訓練分野）  
「IT分野」「デザイン分野」

【委託訓練】令和4年度は就職率はIT分野で改善。応募倍率はデザイン分野で156.8%と高倍率。

【求職者支援訓練】令和4年度はいずれも就職率が低下したが特にデザイン分野で大幅低下。応募倍率はいずれも上昇。

A 一部改善もみられるが、この分野の応募倍率は両訓練とも70%台であることから、引き続き、訓練コースの内容や効果を踏まえた受講勧奨の強化が必要。委託訓練についてはEの措置も併せて実施。

B 高応募倍率が続いていることから、IT分野、デザイン分野とも、一層の設定促進（F同旨）が必要。

C 他方で、特にデザイン分野は就職率が低いことから、求人ニーズに即した効果的な訓練内容か検討が必要。

D 就職率向上のため、受講希望者のニーズに沿った適切な訓練を勧奨できるようハローワーク訓練窓口職員の知識の向上や事前説明会・見学会の機会確保を図るとともに、訓練修了者の就職機会の拡大に資するよう訓練修了者歓迎求人等の確保を推進する等の取組推進が必要。

### 計画と実績の乖離

委託訓練の計画数と実績は乖離。さらに令和4年度は委託訓練受講者が減少。

E 開講時期の柔軟化、受講申込締切日から受講開始日までの期間の短縮、効果的な周知広報等、受講者数増加のための取組が必要。

### 人材ニーズを踏まえた設定

デジタル人材が質・量とも不足、都市圏偏在が課題。（デジタル田園都市国家構想総合戦略）

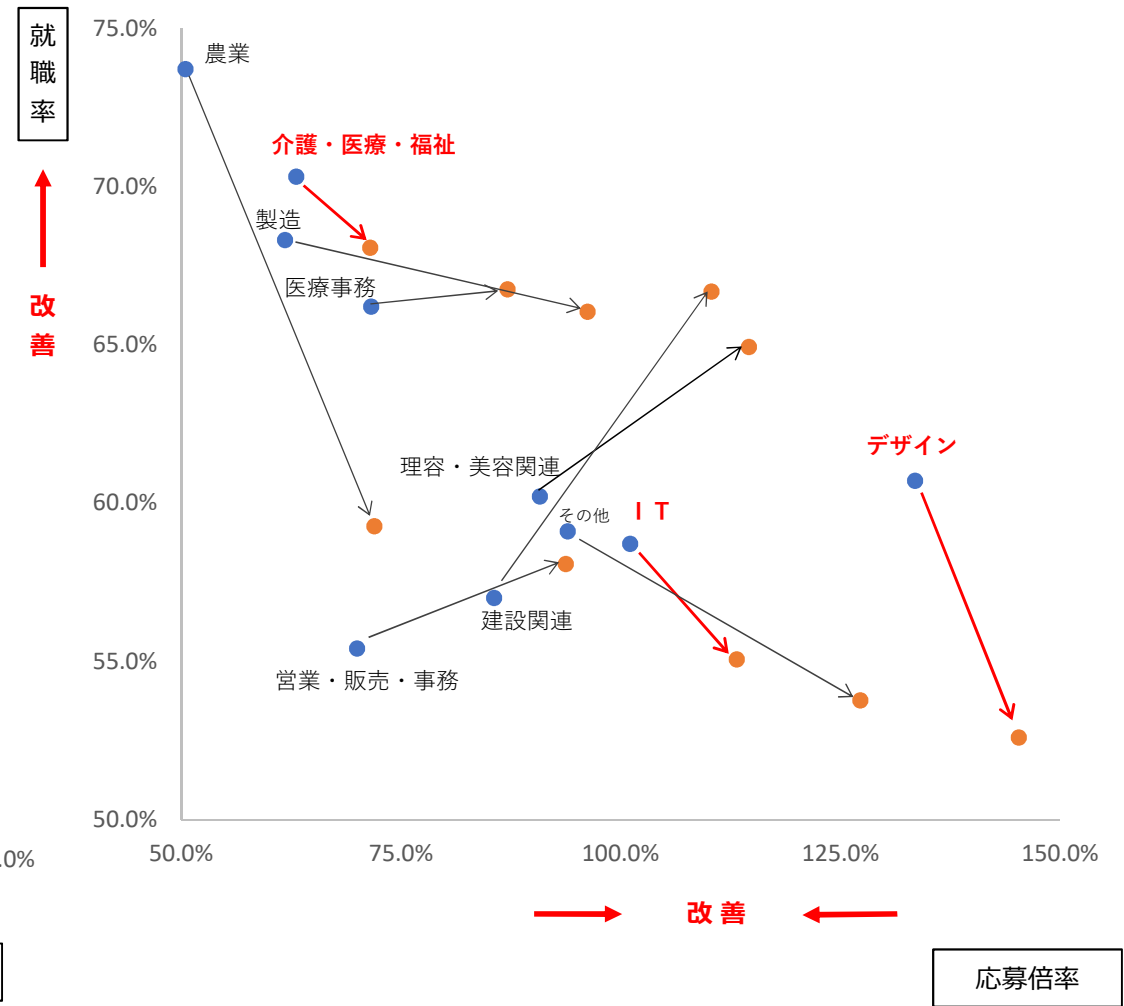
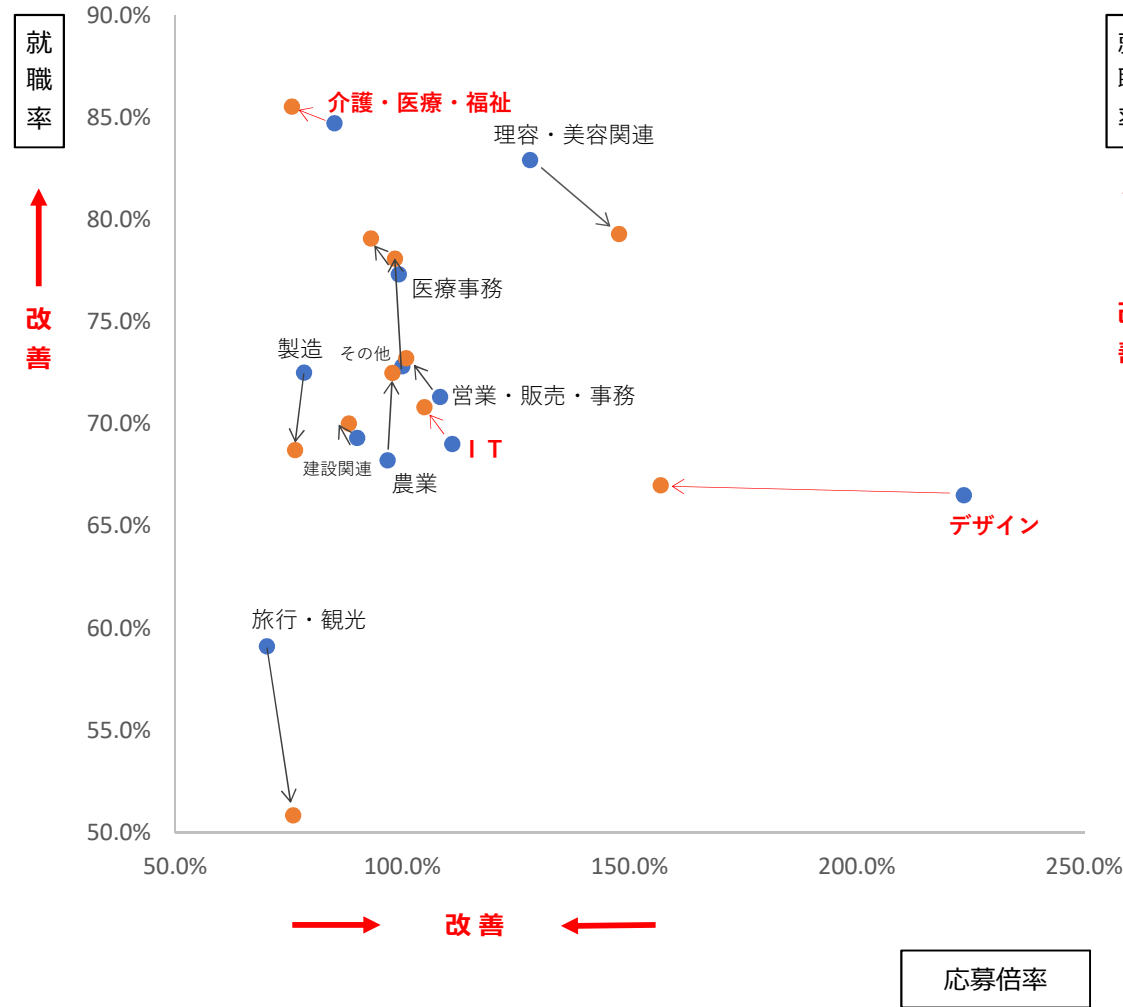
F 職業訓練のデジタル分野への重点化を進め、一層の設定促進が必要。

# 【参考】委託訓練及び求職者支援訓練の応募倍率及び就職率の状況

● 令和3年度 ● 令和4年度

【委託訓練】

【求職者支援訓練】



※用語の定義は、資料3-1と同様。

# 【参考】令和6年度計画策定に向けた課題整理

## 令和5年度実施計画

## 取組状況

## 今後の課題

課題	実施方針
①就職率が高く、応募倍率が低い分野 「介護・医療・福祉」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応募・受講しやすい募集・訓練日程の検討が必要。</li> <li>・訓練コースの内容や効果を踏まえた受講勧奨の強化。</li> </ul>
②応募倍率が高く、就職率が低い分野 「IT分野」「デザイン分野」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求人ニーズに即した訓練内容になっているか、就職支援策が十分か、検討が必要。</li> <li>・「公共職業訓練の効果検証」の結果も踏まえた、ハローワークと連携した就職支援の強化が必要。</li> </ul>
③求職者支援訓練のうち基礎コースはR3年度計画では認定規模の50%程度としていたが、実績は2割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労経験が少ない者等の就職困難者には、社会人としての基礎的能力を付与する基礎コースが有効。このため、基礎コースの設定を推進するとともに、実態を踏まえた計画の策定が必要。</li> </ul>
④委託訓練の計画数と実績の乖離	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練期間等のニーズを踏まえた訓練コースの設定を進めるとともに、実態を踏まえた計画数の検討が必要。</li> </ul>
⑤デジタル人材が質・量とも不足、都市圏偏在が課題 (デジタル田園都市国家構想基本方針)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業訓練のデジタル分野への重点化が必要。</li> </ul>

委託訓練について、開講時期の柔軟化や受講申込締切日から受講開始日までの期間の短縮等、応募・受講しやすくする対応の検討を都道府県に依頼。

地域協議会の公的職業訓練効果検証ワーキンググループによるデジタル分野、介護・医療・福祉分野の効果検証結果を全国に情報共有予定。

ハローワークにおいて、デジタル分野の適切な受講あっせん等に向け、訓練窓口職員の知識の向上、訓練実施施設による事前説明会・見学会の機会確保、訓練修了者歓迎求人等の確保を推進。

受講者ニーズを踏まえ、基礎コースの訓練内容の弾力化したところ。  
なお、令和4年度は全都道府県で基礎コースを開講（※令和3年度は4県未開講）。

委託訓練について、開講時期の柔軟化や受講申込締切日から受講開始日までの期間の短縮等、応募・受講しやすくする対応の検討を都道府県に依頼。【再掲】

デジタル分野の訓練コースの委託費等の上乗せ等により、職業訓練の設定を促進。

PDCAの継続的な推進

ハローワークにおける適切な受講あっせん及び就職支援

委託訓練の受講者が減少傾向

2024年度7.0万人※達成に向け、デジタル分野の職業訓練の更なる重点化  
※公的職業訓練及び教育訓練給付の受講者の計





# ハロートレーニング（離職者向け）の令和4年度実績【岐阜県】

資料3-3

## 1 離職者向けの公的職業訓練の分野別訓練規模

21_岐阜		総計		
分野		コース数	定員	受講者数
公共職業訓練（離職者向け） + 求職者支援訓練（実践コース）	IT分野	18	220	207
	営業・販売・事務分野	53	768	643
	医療事務分野	10	132	106
	介護・医療・福祉分野	17	153	87
	農業分野	0	0	0
	旅行・観光分野	0	0	0
	デザイン分野	0	0	0
	製造分野	24	248	143
	建設関連分野	7	100	69
	理容・美容関連分野	5	75	63
その他分野	6	70	69	
（基礎者支援訓練）	基礎	6	85	64
合計		146	1,851	1,451
（参考）デジタル分野		24	326	252

### 用語の定義

※本資料における用語は、以下のとおり定義しています。

#### 「コース数」

公共職業訓練については、当該年度中に開講したコース及び当該年度以前から開始し当該年度に実施した訓練コースの数（当該年度以前に開講し、次年度に繰り越すコースを含む）。

求職者支援訓練については当該年度中に開講したコースの数。

#### 「定員」

当該年度中に開講した訓練コースの定員の数。

#### 「受講者数」

当該年度中に開講したコースに入校した者の数。

#### 「応募倍率」

当該訓練の定員を100とした時の、受講を申し込んだ者の数の倍率。

#### 「定員充足率」

当該訓練の定員に対する受講者数の割合。

#### 「就職率」

訓練を修了等した者のうち就職した者の割合。分母については受講者数から中途退校者数(中途退校就職者数を除く)等を差し引き、分子については中途退校就職者を加えている。

ただし、公共職業訓練については、令和4年度末までに終了したコース、求職者支援訓練については、令和4年12月末までに終了したコースについて集計。

#### 「デジタル分野」

IT分野(ITエンジニア養成科など。情報ビジネス科を除く。)、デザイン分野(WEBデザイン系のコースに限る)等。

※数値は速報値のため、今後変動の可能性がある。

## 2 離職者向けの公的職業訓練の制度別、分野別訓練の実施状況

※応募倍率、就職率については、高いものから上位2分野を赤色セル、下位2分野を緑色セルに着色して表示している。

分野		公共職業訓練(都道府県:委託訓練)						求職者支援訓練					
		コース数	定員	受講者数	応募倍率	定員充足率	就職率	コース数	定員	受講者数	応募倍率	定員充足率	就職率
公共職業訓練(離職者向け) + 求職者支援訓練(実践コース)	IT分野	11	125	118	203.2%	94.4%	88.0%	7	95	89	177.9%	93.7%	58.7%
	営業・販売・事務分野	33	430	371	114.2%	86.3%	74.3%	20	338	272	91.7%	80.5%	52.6%
	医療事務分野	7	100	80	100.0%	80.0%	91.1%	3	32	26	87.5%	81.3%	71.4%
	介護・医療・福祉分野	15	124	75	74.2%	60.5%	91.3%	2	29	12	44.8%	41.4%	55.6%
	農業分野	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-
	旅行・観光分野	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-
	デザイン分野	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	72.7%
	製造分野	6	60	38	73.3%	63.3%	83.8%	0	0	0	-	-	-
	建設関連分野	2	30	20	83.3%	66.7%	42.1%	0	0	0	-	-	-
	理容・美容関連分野	0	0	0	-	-	-	5	75	63	96.0%	84.0%	29.4%
	その他分野	0	0	0	-	-	-	2	30	15	53.3%	50.0%	60.0%
求職者支援訓練 (基礎コース)	基礎	-	-	-	-	-	-	6	85	64	88.2%	75.3%	51.4%
合計		74	869	702	115.8%	80.8%	79.7%	45	684	541	99.9%	79.1%	
(参考) デジタル分野		11	125	118	203.2%	94.4%	88.0%	7	95	89	177.9%	93.7%	61.4%

※数値は速報値のため、今後変動の可能性がある。

(注)求職者支援訓練の就職率は令和4年12月末までに終了したコースについて集計。

分野	公共職業訓練(都道府県:施設内訓練)						公共職業訓練(高齢・障害・求職者雇用支援機構)					
	コース数	定員	受講者数	応募倍率	定員充足率	就職率	コース数	定員	受講者数	応募倍率	定員充足率	就職率
IT分野	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-
営業・販売・事務分野	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-
医療事務分野	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-
介護・医療・福祉分野	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-
農業分野	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-
旅行・観光分野	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-
デザイン分野	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-
製造分野	0	0	0	-	-	-	18	188	105	61.7%	55.9%	86.4%
建設関連分野	2	30	20	103.3%	66.7%	94.4%	3	40	29	80.0%	72.5%	88.0%
理容・美容関連分野	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-
その他分野	0	0	0	-	-	-	4	40	54	145.0%	135.0%	-
合計	2	30	20	103.3%	66.7%	94.4%	25	268	188	76.9%	70.1%	86.8%
(参考) デジタル分野	0	0	0	-	-	-	6	106	45	46.2%	42.5%	95.2%

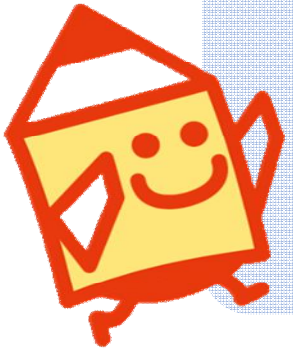
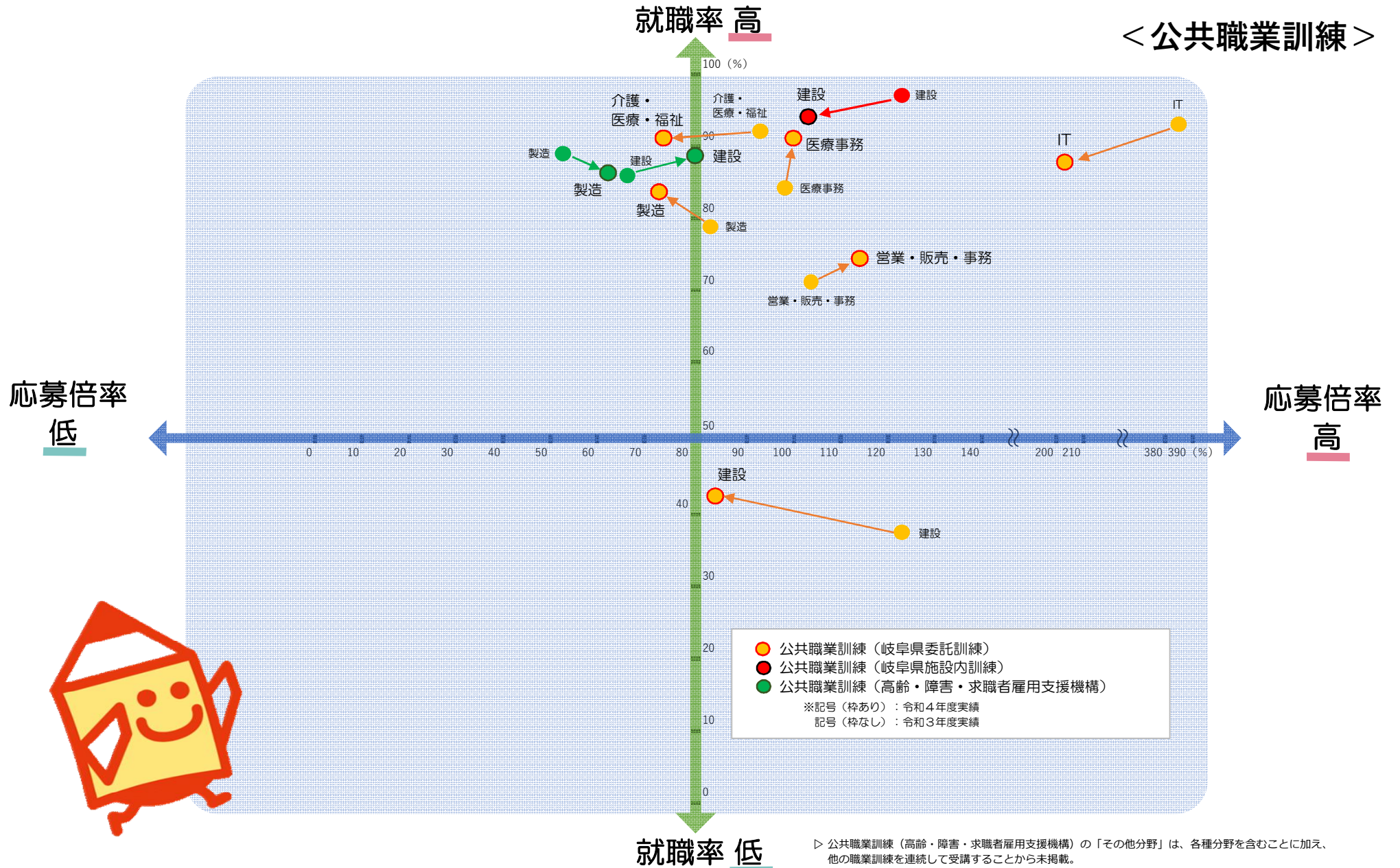
※数値は速報値のため、今後変動の可能性がある。



# 応募倍率及び就職率の2指標からの分析（岐阜県）

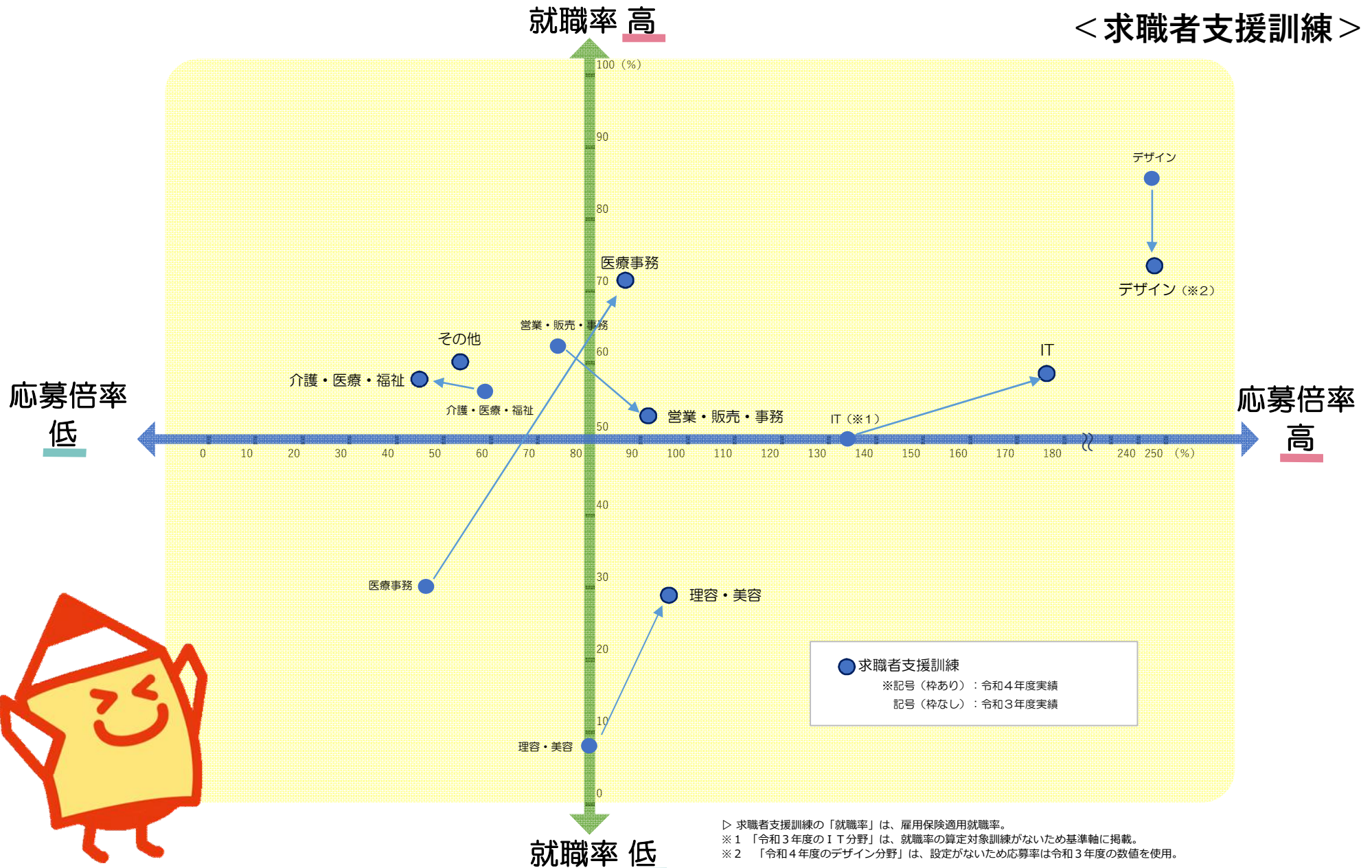
資料3-4

## < 公共職業訓練 >

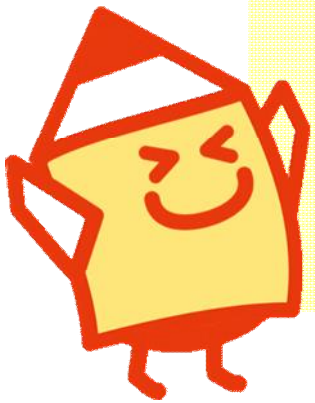


# 応募倍率及び就職率の2指標からの分析（岐阜県）

< 求職者支援訓練 >



▷ 求職者支援訓練の「就職率」は、雇用保険適用就職率。  
 ※1 「令和3年度のIT分野」は、就職率の算定対象訓練がないため基準軸に掲載。  
 ※2 「令和4年度のデザイン分野」は、設定がないため応募率は令和3年度の数値を使用。



# 指標から分析した改善すべき方向性

就職率 高

## 【就職率「高」・応募倍率「低」の分野の改善方策】

求人ニーズの観点からは効果的な訓練と言えるが、受講者ニーズをとらえ切れていない可能性がある。

### <考えられる改善の方向性>

- 訓練コースが、求職者にとって応募や受講がしやすい募集日程・訓練日程となっているか要検討。
- 受講勧奨の段階で、訓練コースの内容や効果に関する周知の強化について要検討。

応募倍率  
低

## 【就職率「高」・応募倍率「高」の分野の改善方策】

求人ニーズ、求職者ニーズを踏まえた効果的な職業訓練と言える。

### <考えられる改善の方向性>

- 応募倍率が100%を超えている場合には、申込者数に応じた定員の拡充について要検討。

応募倍率  
高

## 【就職率「低」・応募倍率「低」の分野の改善方策】

求人ニーズ、受講者ニーズ双方をとらえ切れていない可能性がある。

### <考えられる改善の方向性>

- 求人ニーズ、受講者ニーズに即した訓練内容になっているか要検討。
- 就職支援策に課題がないか、強化する必要があるか要検討
- 訓練コースの周知や受講勧奨に課題がないか要検討。
- 以上を講じても改善されないときは訓練コースの縮小を要検討。

## 【応募倍率「高」・就職率「低」の分野の改善方策】

求人ニーズをとらえ切れていない可能性があるとともに、受講者に就職率が低いことが伝わっていない可能性がある。

### <考えられる改善の方向性>

- 求人ニーズに即した訓練内容になっているか要検討。
- 就職支援策に課題がないか、強化する必要があるか要検討
- 受講勧奨時に、受講者に必要な情報が伝わっているか、要検討。

就職率 低





## 令和5年度計画と同程度の規模で人材を育成

### 分野別 実施状況 の分析

①就職率が高く、応募倍率が低い分野  
「製造」「建設（施設内）」「介護・医療・福祉」

・いわゆる人手不足分野が多い。職業訓練受講のメリット等を求職者に積極的に伝えていく必要がある。

②応募倍率が高く、就職率が低い分野  
「建設（委託）」「理容・美容（求訓）」

・求人ニーズに即した訓練内容や就職支援策の強化を検討していく必要がある。

③応募倍率が高く、就職率も高い分野  
「IT」「デザイン」「医療事務」「営業・販売・事務」

・求人・求職者ニーズを踏まえ、既存コースを維持しつつ、新規コースの設定や訓練校の開拓に努める。

④求職者支援訓練の認定数は上限値に近く、受講率が高くなったことで受講者数は目標を達成。

・短期間・短時間等の特例訓練や奨励金の特例措置を活用し職業訓練の活性化と適切誘導に努める。

⑤全国実績との対比において、岐阜県の委託訓練は受講率、就職率とも堅調に推移している。

・引き続き訓練コースと求職者ニーズのマッチング状況を踏まえた訓練コースの設定を推進する。

⑥全国と比べ、公共施設内訓練は就職率が高いが、受講者数が少ない。

・開講時期や訓練期間を工夫するとともに、引き続き施設内訓練に加え学卒者訓練も充実していく。

⑦デジタル人材については、求人ニーズ、求職者ニーズとも高い。

・R5年度におけるデジタル人材については委託訓練、求職者支援訓練合わせて、330人程度の規模で計画しているが、応募倍率が高いことから、訓練コースの拡充に努める。また、デジタル分野以外の訓練コースにおいても基礎的なデジタルリテラシーの要素を訓練内容に加味していく。

⑧デジタル推進人材の育成を加速化するため、受講形態の多様化が図られる中、他県や都市部の訓練をeラーニングで受講する者が増えたが、就職率の低さが課題となっている。

・オンラインで実施する訓練の中では、比較的に就職率の良い同時双方向型訓練の設定を推奨していく。

### 人材ニーズと受講形態の多様化を踏えた設定